

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年2月9日

【四半期会計期間】 第106期第3四半期(自平成29年10月1日至平成29年12月31日)

【会社名】 近畿車輛株式会社

【英訳名】 THE KINKI SHARYO CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 岡根修司

【本店の所在の場所】 東大阪市稲田上町2丁目2番46号

【電話番号】 06(6746)5231

【事務連絡者氏名】 経理部長 益田浩

【最寄りの連絡場所】 東大阪市稲田上町2丁目2番46号

【電話番号】 06(6746)5231

【事務連絡者氏名】 経理部長 益田浩

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第105期 第3四半期 連結累計期間	第106期 第3四半期 連結累計期間	第105期
会計期間		自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日	自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日
売上高	(百万円)	31,754	45,487	45,544
経常利益又は経常損失()	(百万円)	10,561	3,993	14,981
親会社株主に帰属する 四半期純利益 又は親会社株主に帰属する 四半期(当期)純損失()	(百万円)	10,570	4,281	14,610
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	12,499	4,523	15,060
純資産額	(百万円)	19,119	21,080	16,558
総資産額	(百万円)	66,018	79,662	72,648
1株当たり四半期純利益金額 又は四半期(当期)純損失金額()	(円)	1,535.59	622.00	2,122.49
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	29.0	26.5	22.8

回次		第105期 第3四半期 連結会計期間	第106期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日	自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	200.43	115.76

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 3 売上高には、消費税及び地方消費税(以下、「消費税等」という)は含まれておりません。
- 4 平成28年10月1日を効力発生日として、普通株式10株を1株の割合とする株式併合を実施しており、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益金額又は四半期(当期)純損失金額を算定しております。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1)業績の状況

当第3四半期連結累計期間の当社グループ(当社及び連結子会社)における業績は、売上高が454億8千7百万円(前第3四半期連結累計期間売上高317億5千4百万円)と前年同期に比べ137億3千3百万円の増加となり、営業利益は38億3千7百万円(前第3四半期連結累計期間営業損失106億6千4百万円)、経常利益は39億9千3百万円(前第3四半期連結累計期間経常損失105億6千1百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益は42億8千1百万円(前第3四半期連結累計期間親会社株主に帰属する四半期純損失105億7千万円)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

鉄道車両関連事業

国内向車両の東京地下鉄株式会社向電車、海外向車両のロサンゼルス郡都市交通局向電車等により、売上高は448億9千3百万円(前第3四半期連結累計期間売上高311億5千5百万円)となり、営業利益は40億1千6百万円(前第3四半期連結累計期間営業損失104億円)となりました。

不動産賃貸事業

東大阪商業施設及び所沢商業施設を中心に売上高は5億9千4百万円(前第3四半期連結累計期間売上高5億9千9百万円)となり、営業利益は5億1千6百万円(前第3四半期連結累計期間営業利益5億1千9百万円)となりました。

(2)財政状態の分析

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は796億6千2百万円(前連結会計年度末726億4千8百万円)と70億1千3百万円の増加となりました。流動資産は主に受取手形及び売掛金の増加により、563億2百万円(前連結会計年度末494億円)と69億2百万円の増加となりました。固定資産は233億6千万円(前連結会計年度末232億4千8百万円)と1億1千1百万円の増加となりました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は585億8千1百万円(前連結会計年度末560億9千万円)と24億9千1百万円の増加となりました。流動負債は主に前受金及び受注損失引当金が減少したものの短期借入金の増加により、426億5千4百万円(前連結会計年度末396億5千万円)と30億4百万円の増加となりました。固定負債は159億2千7百万円(前連結会計年度末164億4千万円)と5億1千2百万円の減少となりました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は210億8千万円(前連結会計年度末165億5千8百万円)と45億2千2百万円の増加となりました。その主な要因は親会社株主に帰属する四半期純利益の計上によるものです。

(3)研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は9千9百万円であります。

(4)生産、受注及び販売の実績

生産実績

当第3四半期連結累計期間における生産実績をセグメント毎に示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(百万円)	前年同四半期比(%)
鉄道車両関連事業	44,805	147.2
合計	44,805	147.2

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

受注実績

当第3四半期連結累計期間における受注実績をセグメント毎に示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(百万円)	前年同四半期比(%)	受注残高(百万円)	前年同四半期比(%)
鉄道車両関連事業	18,071	151.7	120,915	79.1
合計	18,071	151.7	120,915	79.1

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

販売実績

当第3四半期連結累計期間における販売実績をセグメント毎に示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同四半期比(%)
鉄道車両関連事業	44,893	144.1
不動産賃貸事業	594	99.2
合計	45,487	143.2

(注) 1 セグメント間の取引については相殺消去しております。
 2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	12,000,000
計	12,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成29年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年2月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	6,908,359	6,908,359	東京証券取引所 市場第1部	単元株式数 100株
計	6,908,359	6,908,359		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成29年10月1日～ 平成29年12月31日		6,908,359		5,252		2,624

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成29年9月30日の株主名簿により記載しております。

【発行済株式】

平成29年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 25,400		単元株式数100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,860,000	68,600	同上
単元未満株式	普通株式 22,959		
発行済株式総数	6,908,359		
総株主の議決権		68,600	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が200株(議決権2個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式72株が含まれております。

【自己株式等】

平成29年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 近畿車輛株式会社	東大阪市稲田上町2丁目 2番46号	25,400		25,400	0.36
計		25,400		25,400	0.36

(注) 株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が200株(議決権2個)あります。

なお、当該株式数は、上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式に含まれております。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成29年10月1日から平成29年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,990	3,990
受取手形及び売掛金	17,374	25,304
仕掛品	23,986	24,451
原材料及び貯蔵品	779	710
その他	3,285	1,862
貸倒引当金	16	15
流動資産合計	49,400	56,302
固定資産		
有形固定資産	14,430	13,601
無形固定資産	90	69
投資その他の資産		
投資有価証券	8,147	9,246
その他	595	457
貸倒引当金	15	14
投資その他の資産合計	8,727	9,689
固定資産合計	23,248	23,360
資産合計	72,648	79,662

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	8,485	9,753
短期借入金	5,824	18,251
1年内返済予定の長期借入金	1,091	1,081
未払法人税等	80	53
前受金	5,200	1,318
賞与引当金	258	122
製品保証引当金	758	1,077
受注損失引当金	14,407	8,845
その他	3,543	2,151
流動負債合計	39,650	42,654
固定負債		
長期借入金	10,515	9,688
退職給付に係る負債	2,489	2,550
その他	3,434	3,688
固定負債合計	16,440	15,927
負債合計	56,090	58,581
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,252	5,252
資本剰余金	3,124	3,124
利益剰余金	3,816	8,097
自己株式	102	103
株主資本合計	12,091	16,371
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,254	4,017
繰延ヘッジ損益	130	2
為替換算調整勘定	1,370	921
退職給付に係る調整累計額	288	232
その他の包括利益累計額合計	4,466	4,708
純資産合計	16,558	21,080
負債純資産合計	72,648	79,662

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	31,754	45,487
売上原価	40,138	39,247
売上総利益又は売上総損失()	8,383	6,240
販売費及び一般管理費	2,281	2,402
営業利益又は営業損失()	10,664	3,837
営業外収益		
受取利息	1	0
受取配当金	125	279
為替差益	265	64
雑収入	33	56
営業外収益合計	425	400
営業外費用		
支払利息	108	222
雑支出	213	22
営業外費用合計	322	244
経常利益又は経常損失()	10,561	3,993
特別利益		
固定資産売却益	-	203
特別利益合計	-	203
税金等調整前四半期純利益 又は税金等調整前四半期純損失()	10,561	4,197
法人税、住民税及び事業税	39	38
法人税等調整額	31	122
法人税等合計	8	84
四半期純利益又は四半期純損失()	10,570	4,281
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益 又は親会社株主に帰属する四半期純損失()	10,570	4,281

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失()	10,570	4,281
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	131	762
繰延ヘッジ損益	29	127
為替換算調整勘定	2,148	449
退職給付に係る調整額	58	56
その他の包括利益合計	1,928	241
四半期包括利益	12,499	4,523
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	12,499	4,523
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
減価償却費	803百万円	1,073百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年5月11日 取締役会	普通株式	206	3.00	平成28年3月31日	平成28年6月13日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	鉄道車両 関連事業	不動産 賃貸事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	31,155	599	31,754		31,754
セグメント間の内部売上高 又は振替高		0	0	0	
計	31,155	600	31,755	0	31,754
セグメント利益又は損失()	10,400	519	9,880	783	10,664

(注) 1 セグメント利益の調整額 783百万円は、各報告セグメントに帰属していない全社費用 783百万円であり、全社費用は当社本社の管理部門に係る費用であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2 地域に関する情報

売上高

(単位:百万円)

日本	アメリカ	中東・アフリカ	アジア	合計
12,170	16,744	425	2,413	31,754

(注) 1 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

2 各区分に属する主な国又は地域

(1) 中東・アフリカ.....カタール国、アラブ首長国連邦、エジプト・アラブ共和国

(2) アジア.....中華人民共和国(香港)

当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	鉄道車両 関連事業	不動産 賃貸事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	44,893	594	45,487		45,487
セグメント間の内部売上高 又は振替高		0	0	0	
計	44,893	595	45,488	0	45,487
セグメント利益	4,016	516	4,532	694	3,837

(注)1 セグメント利益の調整額 694百万円は、各報告セグメントに帰属していない全社費用 694百万円であり、全社費用は当社本社の管理部門に係る費用であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 地域に関する情報

売上高

(単位:百万円)

日本	アメリカ	中東・アフリカ	アジア	合計
11,757	18,413	11,186	4,130	45,487

(注)1 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

2 各区分に属する主な国又は地域

- (1) 中東・アフリカ.....カタール国、アラブ首長国連邦、エジプト・アラブ共和国
 (2) アジア.....中華人民共和国(香港)、フィリピン共和国

(金融商品関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(有価証券関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額 又は四半期純損失金額()	1,535円59銭	622円00銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額() (百万円)	10,570	4,281
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額 又は普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純損失金額() (百万円)	10,570	4,281
普通株式の期中平均株式数(株)	6,883,555	6,882,929

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
 2 平成28年10月1日を効力発生日として、普通株式10株を1株の割合とする株式併合を実施しており、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年2月9日

近畿車輛株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中 畑 孝 英

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 安 井 康 二

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている近畿車輛株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成29年10月1日から平成29年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、近畿車輛株式会社及び連結子会社の平成29年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。